

福江中学校
保健室 No.4
令和6年11月8日

薬物乱用防止教室

10月30日(水)、3年生が薬物乱用防止教室を行いました。田原警察署の原さん、三河ダルクの方々に、薬物の実態や乱用することの怖さについて講演をしていただきました。

<講演内容>

<田原警察署 原さん>

- ・薬物乱用を始めるきっかけで一番多いのは、先輩や友人からの誘い。
- ・中学生でも薬物が広まっている。豊橋駅では、夜、たまっている人に密売人が近づいてきて、薬物の売買が行われるという事例がある。
- ・SNSで、薬物に関する間違った情報(依存性がない、合法である国もある、体に悪影響はない)が回り、薬物に手を出してしまう人が多い。
- ・万が一、薬物の誘いを受けて困ったら、保護者や先生や警察など、周りの大人に必ず相談すること。

<三河ダルク>

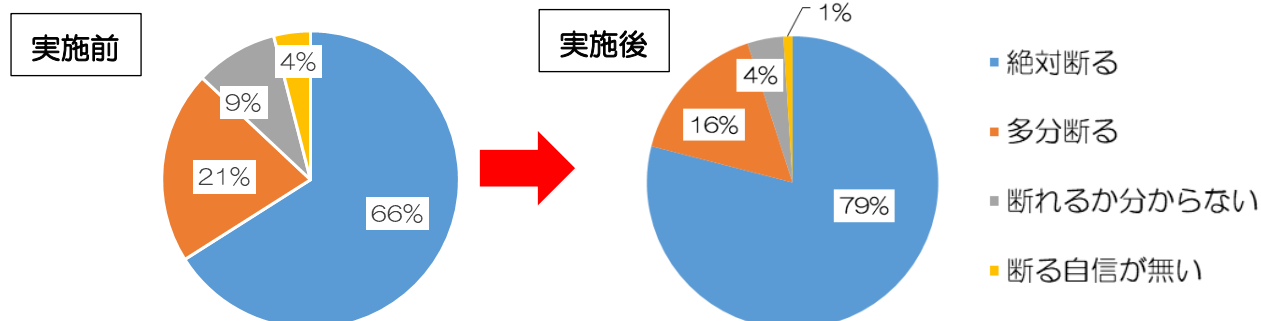
三河ダルクは、薬物やアルコールなどの依存症から回復したいと望む人たちの手助けをする支援施設。利用者の方から依存症についての体験談をお聞きました。

- ・高校1年生の夏休み、親友から危険ドラッグをもらったが断れなかった。使用したときは、たばこを吸ったとき以上のフワッとした感覚で、一瞬だけ悩みがすべて吹き飛んだ気がした。それから、簡単にはやめられずに「ずっとやるわけではないから」と使用し続け、1ヶ月に1回、1週間に1回と、どんどん使用頻度が増えていった。その後も悲しいことがあると、大麻、コカイン、MDMAに手を出した。薬仲間からは、「他の国では合法である」「依存になることが少ない」等と間違った情報を聞いていた。
- ・執行猶予期間は、仕事や住まい、人からの信用を無くして借金のみが残っていた。生きることが苦しくて、死ぬことしか考えていなかった。
- ・薬物の後遺症で、手が震え、言葉が出ず、うまく話せなかった。今こうして皆さんの前で話せるようになるまで15年かかった。
- ・大事な青春時代を自分の手で潰してしまった。僕たちのような思いを、皆さんにはしてほしくない。



<アンケート結果>

3年生に「覚醒剤などの薬物をすすめられたら、断る自信がありますか。」と聞きました。薬物乱用防止教室実施前に比べて、実施後の方が「絶対断る」と答えた人が増加しました。講演を聴いて、薬物乱用の恐ろしさを改めて学んだことで、絶対にやらないという強い思いをもてた人が多くいました。



<生徒感想>

私たちが住んでいる東三河にも、薬物乱用によって逮捕された未成年がいることを知りました。また、友達とよく遊びに行く豊橋駅でも、薬物の密売が行われていることを知り、関係無いと思っていた薬物が、意外と身近にあるものだと思いました。

薬物依存症の体験談を聴いて、薬物は、やめようと思っても簡単にやめられないものだと思い確認しました。私は、つらいことや悩みがあったら一人で抱え込んでしまうことがあるので、辛さから逃れるために薬物を使用することがないように、頼れる人に悩みを相談して対処できるようにしていきます。